

○ これから、「アサーション」について書かれた文章を一回だけ放送します。
「アサーション」とは、日本語では、「主張」という意味で、自分の考えをしっかりと述べることです。

放送の後、聞いた内容と封筒ふうとうに入っている別の問題をもとに、二つの問いに答えても
らいますので、重要だと思うことについてメモをとりながら聞いてください。

なお、封筒の中には、「読み取り問題用紙」と「作文用紙」が入っています。

放送終了後、合図があるまでは中を見ないようにしてください。

問いは、「作文用紙」に書いてあります。

【メモらん】

表紙の次にある「課題用紙」を見てください。

これから、「アサーション」について書かれた文章を一回だけ放送します。「アサーション」とは、日本語では、「主張」という意味で、自分の考えをしつかり述べることです。

放送の後、聞いた内容と封筒に入っている別の問題をもとに、二つの問いに答えてもらいますので、重要だと思うことについてメモをとりながら聞いてください。

なお、封筒の中には、「読み取り問題用紙」と「作文用紙」が入っています。

放送終了後、合図があるまでは中を見ないようにしてください。

問いは、「作文用紙」に書いてあります。

それでは、始めます。

みなさんは、言いにくいことを相手に伝えるのに、困ったりためらったりした経験はありませんか。日本人は、相手に気を遣いすぎて、自分の気持ちを主張することが苦手であると言われてきました。しかし、人間関係をうまくつくっていくためには、相手ばかりでなく、自分の気持ちも大切にする必要があります。

アサーションという考え方があります。日本語では、自分の考えをしつかり述べること。簡単にいうと、「主張」と訳されます。このアサーションの考え方では、コミュニケーションのタイプを大きく三つに分けています。

一つは攻撃的なタイプです。自分のことを中心に考え、相手のことを考えないのがこのタイプです。例えば、失敗した人に対して、頭ごなしにどなりつけるのがこの方法です。言った方は、自分の気持ちを抑えることなく表現するのですからいいでしょうが、言われた方は、どんなに自分が悪くても、いやな思いをしてしまうでしょう。

この逆のタイプが、二つ目の主張しないタイプです。自分の感情を抑えて、相手に合わせるような言い方をするのがこのタイプです。例えば、いつもいろいろなることを頼まれて、それが本当はいやなのに、はつきり断れずに引き受けてしまうような場合です。その時は、相手を気遣っているように見えますが、自分の気持ちに正直になれないので、たびたび不満をかかえることになります。これは大きなストレスになりかねません。

そして、三つ目がアサーティブなタイプです。アサーティブな表現とは、相手に配慮しながら、感情的にならずに、自分の気持ちや意見を相手に伝える方法です。このアサーティブな表現をするのに大切なことは、自分の気持ちや意見とは違うことを言われても、まず冷静になることです。そうすれば、相手の立場や考えを見つめる心の余裕ができるはずです。自分の考えがひとりよがりではないか、とひかえめな気持ちにもなれるのです。そのうえで、自分の気持ちや意見を主張するのです。

そのとき、役立つ表現の一つに、前置きの表現というものがあります。「悪いんだけど」「言いにくいんだけど」「何か理由があると思うんだけど」などの前置きの表現があることで、それを聞く相手は心の準備ができます。友達があなたを映画に誘ってくれたとしましょう。しかしあなたは都合が悪くて行けない、そんなとき、「誘ってくれてありがとう。せっかくの誘いなんですけど、その日は……。」と前置きの表現を使うのです。相手を配慮するちよつとした表現があることで、相手も感情的にならずにすみ、自分の気持ちや思いが伝わりやすくなるのです。

言いにくいけれど言うべきことがある、そんなときには、ぜひアサーティブな表現を心がけてください。

以上で、放送は終わりです。封筒を開けて、読み取り問題用紙と作文用紙をとり出し、受検番号と氏名を記入してから、解答を始めてください。